

地区レベルでの産業・経営分析の方法

内モンゴル牧畜地区における個体複合経営を事例に

ウリジスルン(兵庫県立大学、院)

1 牧畜地区の歴史、現状と地形

1-1 牧畜地区の歴史と問題

内モンゴルは、歴史文献では「塞外」と呼ばれ、万里の長城の外であることが強調されている。そのことは、遊牧民族と農耕民族が対立する歴史において政治的に特殊な地域であることを示唆する。万里の長城沿線、中国の東北三省との境界線に沿って、早くから農業が浸透し、農牧交錯地帯と呼ばれてきた。

本論文は、このような内モンゴル地域を対象とし、牧畜経営の本来のあり方、農業の浸透とその影響を取り上げ、同地域の持続可能な発展の課題を明らかにすることを目的とする。

牧畜業の方式や土地所有の形態は次のように変化してきた。

	政策	放牧方式	家畜所有	土地・所有・使用権	経営
1947 年前		遊牧	私有	共有；ルール	自営
1947 年	自治区成立	遊牧	私有	集体；単位、規模	自営
1956 年	定住政策	放牧（定住）	共有	集体	共同
1982 年	請負制度	放牧（定住）	私有	共有（村）	自営
1996 年	土地分割	放牧（定住）	私有	私的使用権	自営
2003 年	退牧還草	畜舎	私有	私的使用権	自営

1-1-1 解放前に牧奴と呼ばれていたが、土地利用について事実上の共有(実態的な共同利用とそのルールの決定)下で、遊牧において共有地の悲劇を回避し、持続性を確保してきた。

1-1-2 集団化における努力問題(努力より怠業が得)と、政府の計画の失敗とによって、計画経済は失敗に終わった。

1-1-3 請負制度により家畜を個人に分配し、自主自責によって生産を刺激した。だが土地利用ルールを欠いたために草原が劣化した。

1-1-4 回復のために土地使用権の私有化が行われ、畜舎経営方式も増えてきた。これにより現在の諸問題が起こった。中国政府は農業での請負制・土地私有権の個別化の成功を牧畜にも機械的に適用しているが、牧畜の事情はかなり異なる。

1-1-5 現在の問題：畜舎経営では飼料用の開墾が進められ、地下水汲み上げのため水位が低下し、砂漠化が進んでいる。牧草地の私有化により、柵等の排除費用が高く、非効率も出ている。

1-2 A地区の現状

	人口	土地面積（h）						家畜（頭）			経営状況（元）		
		町十部	共有地	牧草地	農地	砂漠	森林	ヒツジ	ヤギ	牛	収入	支出	所得
戸当たり	4.5	96.9	13.4	75.9	1.85	5.45	0.15	17	56	21	15625	9694	6841
集落（20戸）	85	1934	267	1518	37	109	3	340	1120	420			
			13.8%	78.5%	1.9%	5.64%	0.16%						

1-3 A地区の地形 標高：306m. 緯度：43°29' N. 経度：120°31' E



2 牧・農・林を単独でみた利益率を比較する

2-1 一戸の利益率の比較（利益率を1年間に直して比較する）

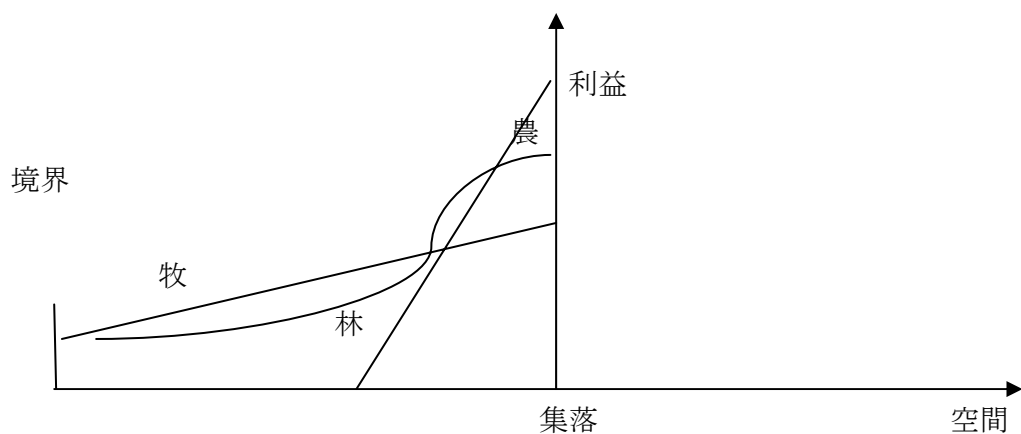
利益率＝（利益÷ 費用）÷生産期間

	収入	費用	利益	生産期間	利益率
農業	8250	6000	2250	1	0.38
ヤギ	6120	2400	3720	5	0.31
木	1200	160	1040	22	0.29
牛	4160	1800	2360	5	0.26
ヒツジ	1080	480	600	5	0.26

植林を農地の近くで行えば、ポンプ、柵、監視がいらないために費用が安くつく。家畜とほぼ同じ利益率を見込めるが、牧草地や砂漠に植えた場合、監視コストや地下水を汲み上げるコストが高いため事業に適しない。木の市場価値だけではなく派生効果を評価すればさらに利益はあがる。

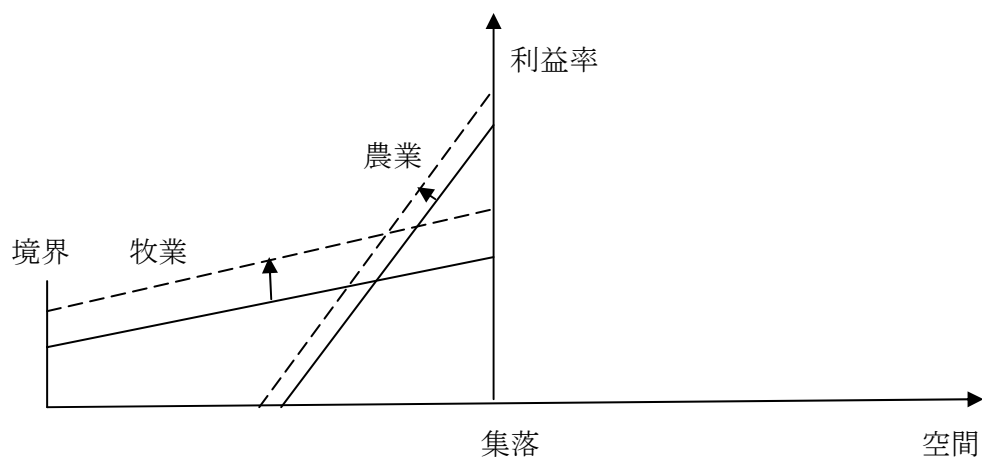
2-2 牧・農・林の単独効果

土地利用が競合する

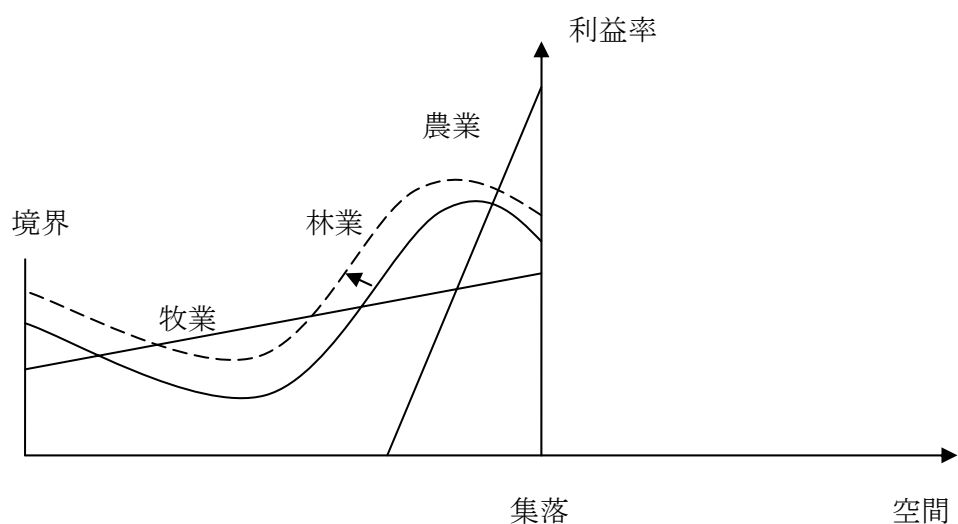


3 補完関係（外部性）

3-1 牧と農の補完効果



3-2 牧農と林の補完効果（木の市場価値と外部効果）



補完関係を十分発揮させるような牧農林を組み合わせる。ヤギを中心とする牧畜の付加価値はかなり高く、将来性も見込める。また、トウモロコシ栽培と中心とする農業は労働集約的であるから、牧畜区にこれを組み込むと労働需要が増えるので、村の労働力をかなり吸収できる。他方、林業は牧農との補完関係が強い。木材の出荷による利益だけではなく砂漠防止にもなり、枝や葉は燃料、餌として使われる。防止災害（風、寒さ、雪）、また、保水、表土の保全、有機物による土質改善、草原涵養、気候温順化など、林業の効果は大きい、規模を拡大すれば成果は遡増する。

4 複合的連合経営

共同化の2つの事例：

4-1 親戚4戸：牧草の涵養と省力化のために、柵を作らず、羊を共同管理(順番)する。農作業と運搬用のトラックが高価なために共同購入し、利用ルールを設ける；自己用利用で故障は個人責任、共同用利用では熟練者が操作する。

4-2 親戚3戸：羊、牛、玉蜀黍の3部門へ分割し、専門化し、事業は独立採算、労働力の過不足の融通は労賃で清算する、親が資金・全体管理する。

4-3 輪牧

5. 戸レベルでの複合経営を、集落レベルでの各種の共同・合作経営(流通、加工、金融、植林、インフラ整備・・)を組合せる。

内モンゴル地域にすでに定着している農業形態を農耕が環境を破壊しているからといってそれをすぐやめさせることはできない。まず、そのバランスを、実態調査に基づいて解明する必要がある。また農業形態の変化によって生じる農家の生活問題を優先しなければならない。本論文では、内モンゴル地域において環境にやさしいのは牧、農、林の組み合わせであると主張し、牧畜経営における「持続可能な発展」の課題を明確にすることを試み、流通と「共同組合」の問題を今後の課題としたい。

参考文献

- 加藤弘之・上原一慶（2004年） 「中国経済論」 ミネルヴァ書房
- 河原昌一郎（1999年） 「詳解 中国の農業と農村」 農山漁村文化協会
- 北野正一（2006年） 「経済政策論の基礎」 兵庫県立大学経済経営研究書
- 天児慧（2000年） 「深層の中国社会—— 農村と地方の構造的変動」 勁草書房
- 中尾正義・小長谷有紀・シンジルト（2005年） 「生態移民」 昭和堂
- 西村博行（1997年） 「農業経営」 放送大学教育振興会
- ブレンサイン（2003年）「近現代におけるモンゴル人農耕村落社会の形成」 風間書房
- ポール・ホーケン/ エイモリ・B・ロビンス/ L・ハンター・ロビンス（2001年） 「自然資本の経済」 日本経済新聞社
- 水間豊 編（1991年） 「畜産の近未来」 川島書店
- モンゴル研究所編（2007年）「近現代内モンゴル東部の変容」（株）雄山閣
- 山本裕美（1999年） 「改革開放期中国の農業政策」 京都大学学術出版会
- 中国語の文献
- 恩和/額尔敦布和 “中国北方环保型农牧业与循环经济” 内蒙古大学出版社

乌日陶克套胡 “蒙古族游牧经济及其变迁” 中央民族大学出版社

钢格尔 “内蒙古自治区经济地理” 新华出版社

王景新 “中国农村土地制度的世纪变革” 中国经济出版社